



新年の

ごあいさつ



市長 森 貞述

新年あけましておめでとございます。市民の皆さまには、さわやかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年2007年は、団塊世代のサラリーマン層が一斉に定年を迎える、いわゆる「2007年問題」がはじまる年となります。高浜市でも約2000人、人口の約4%の人材が地域に戻ってくるが見込まれています。私はこんなときこそ地域における助け合いの文化を再生させる絶好の機会ではないかと考えております。このため、地域づくりに彼らの持つ能力や経験をお貸しいただき、それが可能になるよう必要な権限および財源をそれぞれの地域に渡し、地域の自主的・主体的なまちづくりを行なう「地域内分権」に取り組んでいると伺います。

具体的には5つの小学校区に地域づくりの拠点として「まちづくり協議会」を設立し、「地域内分権」の担い手として活動していただくもので、すでに港小学校区において「南部まちづくり協議会」が設立され



市議会議長 寺田 正人

新年あけましておめでとございます。市民の皆さまにはご家族そろって健やかに清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、一昨年4月からスタートしました港小学校区における高浜南部まちづくり協議会の活動も、拠点となる南部ふれあいプラザのオープンにより確かな歩みを始めました。防災・防犯事業をはじめ、公園管理事業など地域の皆さまの積極的なご参加により、その活動の輪を拡大しながら住民相互のつながりもしだいに強められていると伺っています。

今後、他の4つの小学校区においてもまちづくり協議会の立ち上げが予定されているなか、吉浜小学校区では昨年、人形小路が整備されるなど設立に向けた準備が進められており、翼小学校区においても設立に向けた勉強会がはじまっているところであります。

地域での問題・課題に対してさまざまな知恵を絞る事業を行ない、成果をあげております。さらに、本年3月には吉浜小学校区において「まちづくり協議会」の設立が予定されており、翼小学校区においても「まちづくり協議会」設立に向けて動き始めています。

地域のあるべき姿を自ら提案し、責任を持って実践するという新たな公の担い手として育っていることを私もたいしたしましても、大変喜ばしく思っております。

高浜市の「地域内分権」、「まちづくり協議会」は、その校区に住んでいるあるいは勤めている人なら、誰でも協議会に参画できます。私は地域に関心や誇り・愛着を持ち、地域のために役立ちたいという人材が増えていくことがかつての地域社会が持っていた絆を取り戻し、助け合い文化の再生に繋がるものと確信しています。

地方を取り巻く環境は今後ますます厳しくなることが予想されます。このような難局を乗り切るには、地域の持つ潜在能力を引き出し、助け合いの文化を再生することにも、地域に住むすべての人が住みなれた土地に生涯住み続けられる「共生のまちづくり」こそが必要であると考えていますので、本年も変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆さまの今後ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

団塊の世代の方々が定年を迎えはじめる、いわゆる2007年問題の年を迎え、少子高齢化、人口減少、いじめや環境問題など、社会問題は益々深刻化かつ複雑化してきております。

また、本市においては、平成16年から必修化された臨床研修制度などの影響による医師不足のため経営改革を余儀なくされている市立病院の今後について、市民の皆さまの健康維持と、より身近で質の高い医療の確保を最優先に、最善の方向転換を図る必要が生じております。

これら、さまざまな問題に立ち向かっていくためには、住民一人ひとりの参加による地域の力が大変重要となってまいります。私も市議会といたしましても、市民により身近で親しまれる議会を目標に「議会改革会議」で検討を進めながら、安心・安全のまちづくりのため、住民力、地域力を強化すべく市民の皆さまの先頭に立って行動し、また、市民の声の代弁者として、市政の監視機能を最大限に発揮しつつ、「開かれた市議会」として皆さまの信頼と期待に応えるため、決意を新たにしております。どうか、市民の皆さまには、本年も一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、平成19年が健康でさらに良い年であることをご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。